



奈良の伝統工芸から新たなマーケットを生み出し海外展開に挑む

株式会社あかしや 奈良県奈良市

書道用筆「奈良筆」製造の老舗、創業 300 年の株式会社あかしやは、代々南都七大寺の御筆司を務めてきた。同社の筆は現在も職人の手仕事により一本一本作られている。

書道人口が減少する中、書道マーケットを拡大するため、新たな販売ルートを開拓し、カジュアルな書道バッグを全国に先駆けて販売。

また、気軽に水彩画が楽しめるカラー筆ペン「彩」は、「文字を書く」という筆ペンの常識を覆し、ネットのロコミなどを通じて海外のアート分野にも広まるヒット商品となった。

その後も化粧筆、越前塗蒔絵筆ペンなどの新商品の販売、ショールームの設置、さらなる販路の拡大等、新たなニーズの掘り起し、シェア拡大を続け、化粧関連分野や海外マーケットへの更なる展開に挑み続けている。

会社概要



会社名：株式会社あかしや
所在地：奈良市南新町 78 番地の 1
電話：0742-33-6181
FAX：0742-33-0016
創業：1716 (享保元) 年
設立：1912 (大正元) 年 3 月
代表者：代表取締役社長 水谷 豊
資本金：11 百万円
従業員：74 名 (パート含む)
事業内容：書道用筆・画筆・筆ペン・化粧筆他製造販売
URL：<http://www.akashiya-fude.co.jp/>



本社社屋

南都七大寺の御筆司を務めた「奈良筆」の老舗

書道用筆「奈良筆」製造の老舗、株式会社あかしやは 1624 年 (寛永元年) に筆職人として筆作りを始めたことを起源としており、1716 年 (享保元年) に奈良市三条通に「あかしや章穂堂」の看板を立て創業。代々、南都七大寺の御筆司として、東大寺への大仏開眼筆謹製や、正倉院御物の御筆の修繕を手掛けてきた。

奈良の伝統工芸である奈良筆は、長年の技術と経験がものを言う職人の手仕事によって作られている。筆の用途・寸法などに応じて馬、山羊、麩などさまざまな種類・部位の獣毛を絶妙なバランスで配合し、練り混ぜることにより、筆の各部位の特性を引き出し、穂先の鋭く尖った美しい筆に仕上げられる。

伝統工芸としての書道筆は奈良筆のほか、広島熊野筆なども知られているが、書道人口の減少により現在国内で活躍している書筆職人はわずかに残るだけだ。現在、同社の筆の総生産量の 8 割は、関連会社である中国現地法人の約 160 名の筆職人が作っている。

元々書道筆は中国から日本に伝わったものであるが、日本の仮名文化にあうよう改良するなど、日本の筆作りを確立したのが奈良筆であり、「和筆」のはじまりであった。そのため、会長と本社の職人が中国に赴き、30 年以上かけて日本の筆作りの技術を伝えてきたという。

主婦や子供の心を掴んだカジュアルな書道バッグ

300 年以上に亘り、脈々と受け継がれてきた伝統工芸ではあるが、書道人口が減少する中、「書道業界だけを追いかけていても生き残っていけない」と水谷豊社長 (50 歳) は語る。

2003年、社長に就任後、まず商品の新たな販売ルートを開拓した。従来は専門店や問屋を通じて書道業界を中心に流通していたが、文具として量販店にも拡大、全国のホームセンターに同社の商品が並ぶようになった。

さらに、書道マーケットを拡大するため、子供たちがより書道に親しめるよう、デニム生地等を用いたカジュアルな書道バッグを全国に先駆けて販売。社長自らが企画・デザインに携わり、それまでの書道バッグの常識を覆した新商品は、小学生の子供を持つ主婦層の心を徐々に掴み、やがて生産が追いつかなくなる程のヒット商品に成長していった。

「文字を書く」という常識を覆したカラー筆ペン

同社の主力商品である筆ペンにも、「文字を書く」という、それまでの常識を覆した画期的な商品がある。20色のバリエーションを持ち、気軽に水彩画が楽しめるカラー筆ペン、水彩毛筆「彩」である。

カラー筆ペン自体は、既に40年前から商品として存在したが、マーケットが見出されず永らく脚光を浴びることはなかった。それが、穂先に水をつけて描く「日本の伝統色」の水彩画用としてリニューアルした結果、近年になり、ネットの口コミなどを通じて人気に火が付き、タレントや書家が本やテレビで紹介するなど、アート分野に急速に広まっていった。

「彩」は、欧米や中東など海外でも人気が高く、現在、生産量の3分の1は海外市場向けに輸出しているという。

新毛筆「古都」(右)と
水彩毛筆「彩」(下)



他にも、ペンの柄の部分に京友禅柄や江戸小紋柄をあしらった「古都」や、天然竹に漆塗を施し

た「越前塗蒔絵筆ペン」など、ギフトや記念品として魅力的な商品も取り揃えている。

また、「化粧筆」も同社の主力商品となっており、今後さらなる可能性を秘めている。海外の化粧品メーカーの化粧筆は穂先がカットされているのに対し、同社の化粧筆は書道筆の技術を活かし、毛先を切らず、丸く揃えることにより、肌触りの優しい柔らかな穂先を実現している。



本社1階のショールーム(上)
と多彩な化粧筆(左)

奈良筆に付加価値を乗せマーケットを開拓し続ける

量販店を通じて全国展開を図った同社だが、蒔絵筆ペンや化粧筆は、文具・雑貨として土産物店やホテル等、新たなルートで販売しており、本社1階にあるショールームの設置も、こうした販売チャネル拡大のひとつとなっている。

ショールームには、300年以上の歴史と伝統の技から新たに生まれたこれらの商品が一堂に並べられ、筆作りが体験できるコーナーも設置されている。修学旅行や海外からの視察も含め、年間3,500人の見学者が訪れるという。

時代の流れとともに、伝統の奈良筆に付加価値を乗せ、新たなニーズを掘り起し、マーケットを開拓してきた同社。第二創業ともいえる思い切った転換を断行してきた背景には、書道人口の減少に対する危機感と開き直りがあった。

今後も化粧関連分野や海外マーケットへの展開を進め、新たなニーズの掘り起し・シェア拡大を継続し、「くらし彩る筆づくり」で、「足腰の強い会社になりたい」と社長は語る。奈良の伝統工芸が生み出す新商品が、世界各地にファンを広げていくことを期待する。(前田 徹、山城 満)